Ⅰ　学校の概要

学習意欲向上モデル校事業　　観音寺市立柞田小学校

◆児童数及び教員数

〇児童数

第１学年	第２学年	第３学年	第４学年	第５学年	第６学年	特別支援	全　校
３学級 ７６名	３学級 ８２名	２学級 ７０名	３学級 ８４名	３学級 ８１名	３学級 ７６名	２学級 ９名	１９学級 ４７８名

〇教員数　　37 名

◆学校の特色

本校は、香川県の西端、人口約 6 万人の観音寺市南部に位置し、明治 20 年(1987 年)開校、本年で 126 年目を迎える歴史の長い小学校である。

全校児童 478 名、教職員 37 名は『正しく　明るく　たくましく』を校訓に、「豊かな人間性を培い、自ら進んで取り組む、心身ともに健やかな児童の育成」をめざして、日々教育活動に取り組んでいる。

平成 29 年度には、第 48 回中国・四国音楽教育研究大会香川大会の小学校会場校となり、『「いいなあ！」から「なるほど！」へつながる音楽学習の創造』のテーマのもと、６本の授業提案を行い、三観地域の音楽教育の推進に努めた。また、観音寺市研究指定の人権・同和教育や、メディア教育にも積極的に取り組み、成果を残している。

本校の児童は、真面目で素直な児童が多く、与えられた課題に対しては比較的真面目に取り組み、解決しようと努力するが、主体的に学習に取り組める児童が多いとは言えない。

Ⅱ　研究主題等

研究主題

自ら問いを持ち　伝え合い　ともに高め合う子どもの育成
～意欲的に学ぶ授業づくりを通して～

◆研究主題設定の理由

本校は、昨年度の中国・四国音楽教育研究大会に向けて、数年間、「問い」や「思考を通した実感・納得」の醸成を重視して取り組んできた。しかし、自ら解決方法を考え、失敗を恐れずに挑戦して課題を追求しようとする主体的な態度や、自分の考えをのびのびと表現し、他者と学び合おうとする姿勢に課題が見られる児童が多い。また、特定の教科や領域に困難さを抱えていたり、落ち着きがなく衝動的な行動をとったりする児童もおり、コミュニケーションがうまくとれないなど、学習や生活、対人関係面において困難やつまずきを抱えている児童もみられる。

そこで今年度は、「自ら問いを持つ」ための場の設定や、主体的・対話的に伝え合い高め合うことのできる環境を整えることにより、意欲的に学習に向かう児童の育成をめざしてきた。

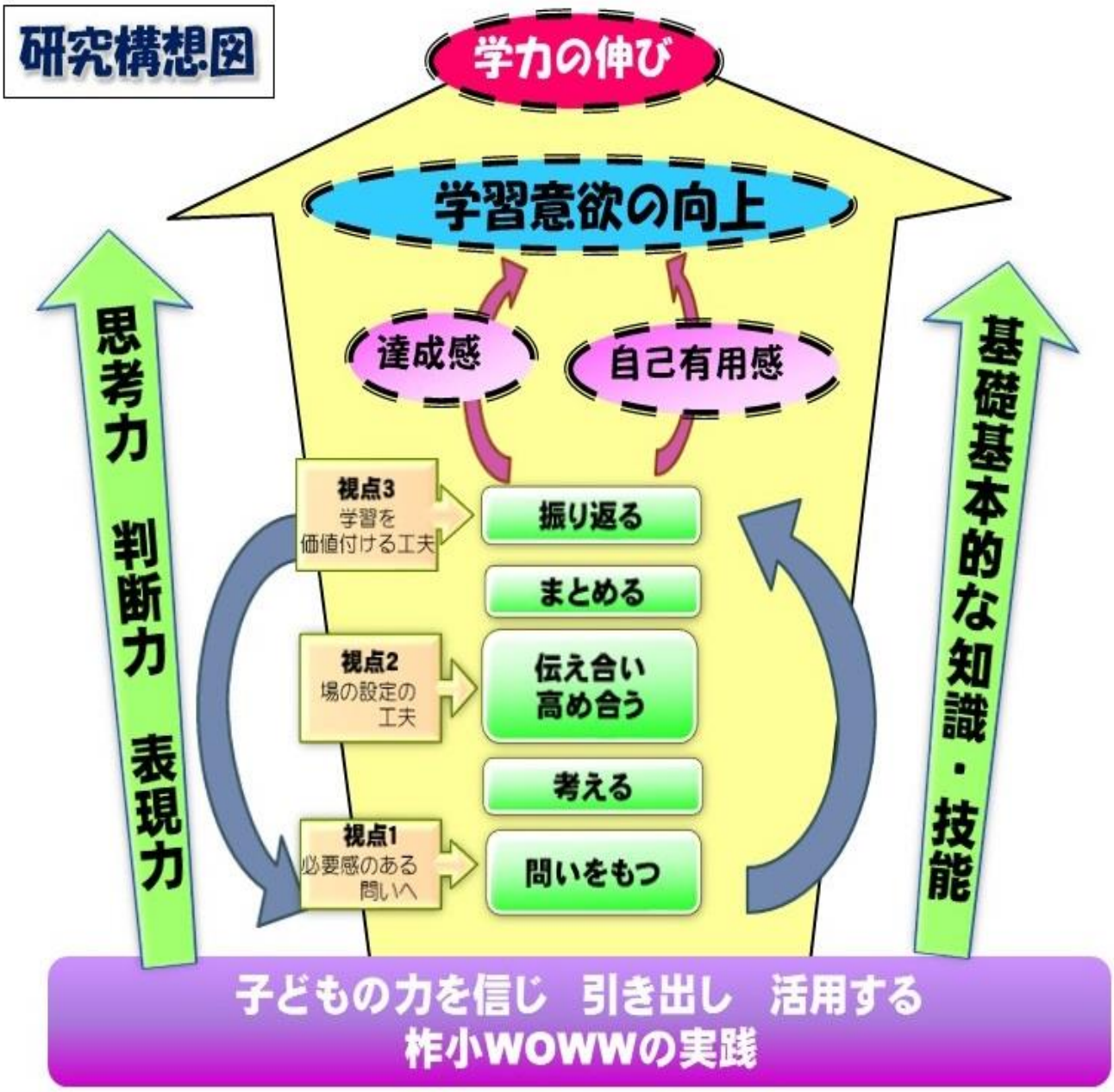
◆研究内容及び方法

1　授業研究の３つの視点

【視点１】「必要感のある問い」を持たせる工夫

【視点２】「伝え合い、ともに高め合う」ことができる工夫

【視点３】「学習を価値付ける振り返り」の工夫



2　研究方法

（1）　研究主題に迫るため、熟練教員による示範授業や、若年教員授業を行う。

（2）　全体授業については、模擬授業を実施して指導案検討を行い、全員が授業を参観する。授業後は、ＫＪ法を取り入れた参加型の討議を行い、成果と課題を共有し、日々の授業に生かす。

（3）　公開授業に、外部より指導者を招いて、指導・助言をいただく。

（4）　文献等を参考にした理論研究を行う。

Ⅲ　研究実践

◆指標設定と達成に向けた取組

1　（児童質問紙）　自分達で問いを作ることができていますか。

指標　　「①よくできている＋②できている」の合計

5月調査	→	目標値	→	11月調査
62%		80%		79%

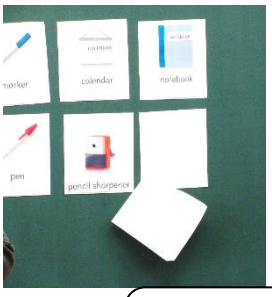
指標の達成に向けた実践

(1)　必要感のある問いを持たせる工夫

既習や経験を基に考えた予想とのずれや、児童が何とかして自分達で解決したいと思うような場面を意図的に作り出すことで、問いが児童にとって必要感のあるものになるように工夫をした。さらに、問題解決のための見通しを持たせる工夫を行うことで、児童が主体的に学習に向かうことができる授業をめざして実践を行った。

①　実践例　4年外国語活動「Do you have～？」

板書用の紙が剥がれてしまい、「貼り直さないと」という必要感を持たせた上で、「のりを貸して。」は英語で何と言ったらよいか尋ねた。児童は、自分が知ってる英語の言い方の中から、「Do you have～？」が使えるのではないかと予想を立て、「Do you have～？」を使って物を借りよう」というゴールを設定し、意欲的に学習に取り組むことができた。



紙が剥がれてしまった。先生を助けなきゃ！！

「のりを貸して」は、英語で何て言うんだろ？

「Here you are.」は貸すときだから、「Do you have～?」かな？

②　実践例　2年算数「1000までの数」

十の位が空位の数字「208」の書き方を学ぶ場面で、教師があえて「28」と誤答を示すことによって、空位ある数字の書き方や、そう書く理由について説明したいという意欲を持たせた。

百の束が2つで、1のバラが8つだから、「28」だよね？

先生、それだったら「二十八」だよ。「208」と書かないといけないよ。

そうそう！どうして「208」と書くか、説明したいな！！

２　（児童質問紙）　普段の授業では、学級の友達との間で話し合う活動をよく行っていますか。？

指標　　「①よくしている＋②どちらかといえばしている」の合計

H29. 11 月調査	→	目標値	→	11 月調査
72%		90%		87%

３　（児童質問紙）　クラスの友達と話し合って、自分の考えをいいものにしていますか。

指標　　「①よくしている＋②どちらかといえばしている」の合計

５月調査	→	目標値	→	11 月調査
74%		90%		83%

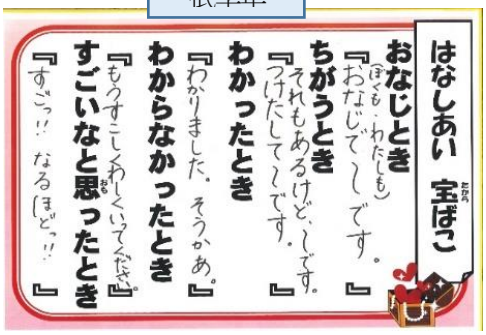
指標の達成に向けた実践

（１）　伝え合い・ともに高め合う場の設定の工夫

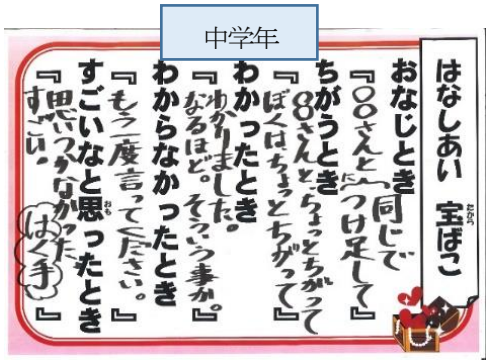
児童が話し合う場を設定することによって、一人ひとりの児童に活躍の場を与えることができ、意欲的に学習に取り組むようになると考えた。しかし、話し合いの場を設定しただけでは話し合い方が分からず、戸惑う児童が多かった。そこで、友達の意見を聞いてどう反応すればよいかを各クラスで話し合い、クラスごとに「話し合い宝箱」に蓄積していくことにした。また、全教職員と全校児童が、具体的なイメージを共有することができるように、若年教員がロールプレイを交えて全校集会で説明をした。

反応の話型

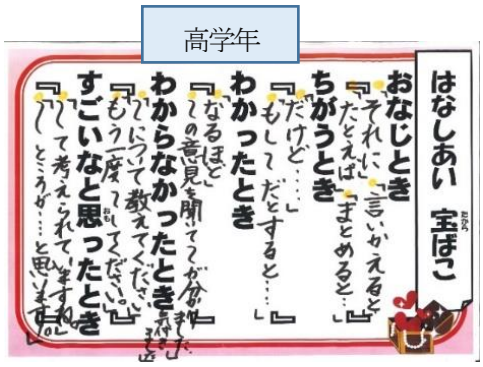
低学年



中学年



高学年

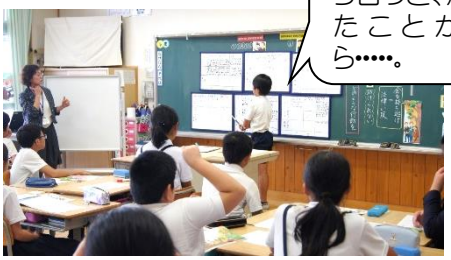


ロールプレイを使って周知

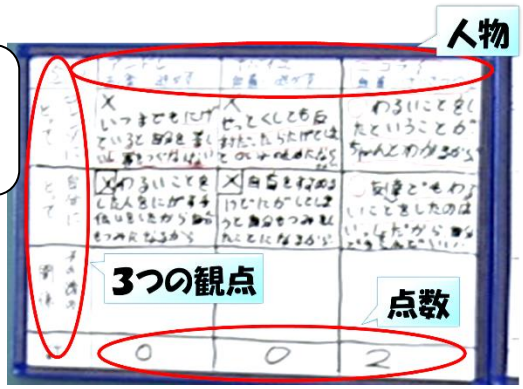
（2） 授業実践

① 実践例　6年道徳「真の友情」

話し合っている内容を、視覚的にわかりやすい表にまとめる工夫を行った。人物の行動について、「友情」「法律」「実行のしやすさ」の３つの観点に分けて、それぞれ０点、１点、２点で評価することで、全員が話し合いに参加することができた。



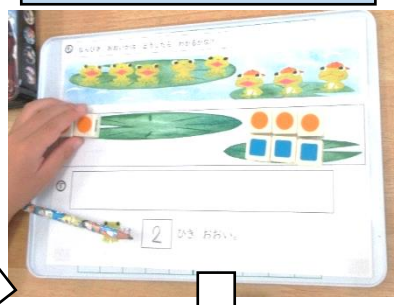
ぼくの班では、法律から言うと、悪いことをしたことが分かるから…。



② 実践例　1年算数科「ひき算(1)めざせひきざんマスター」

磁石のつくホワイトボードにワークシートを貼り付けた教具を作って話し合いをさせた。そうすることで、磁石のブロックを貼ることができ、それを動かしながらひき算の仕方を友達と考え伝え合うことができた。席を離れて交流したり、黒板に貼って全体に説明したりすることができ、全員が意欲的に学びに参加することができた。

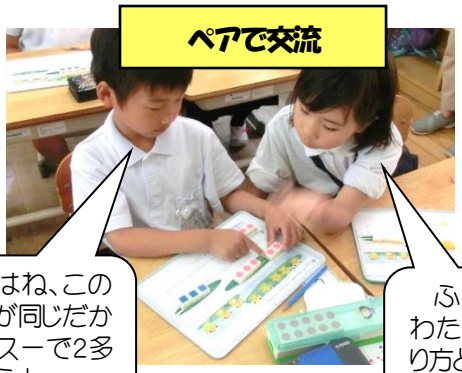
磁石のつくワークシート



一人学び

この3つが握手だから…。

ペアで交流



ぼくはね、この3と３が同じだから、トンスーで2多いと思うよ。

ふうん。わたしのやり方とちょっと違うね。

全体で交流

わたしは違って、こっちの3つをトンスーで持ってきて……。

4　（児童質問紙）　授業で学んだことを振り返ったり、自分が分かったことや思ったことを振り返ったりすることができていますか。

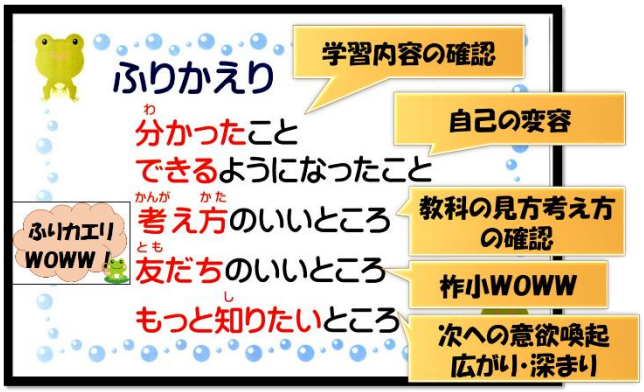
指標　　「①している＋②どちらかといえばしている」の合計

5月調査		目標値		11月調査
81%	→	90%	→	83%

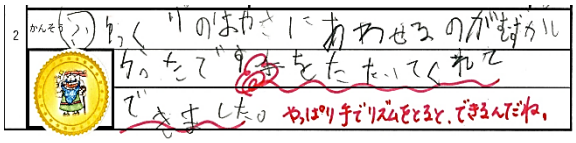
指標の達成に向けた実践

(1)　振り返りの観点の提示

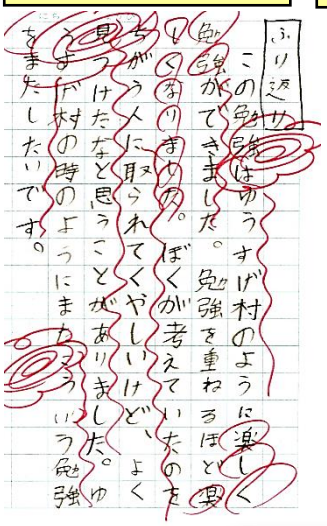
学習を振り返ることは、身についた知識や技能・考え方・学び方を確認し、今後の学習に見通しをもつことにもつながる。また、学んだことの充実感、達成感を味わう場となり、それが、学習への意欲向上に必要なことであると考えた。そこで、全クラス統一の振り返りシートを用いて、多面的な振り返りができるように観点を提示した。



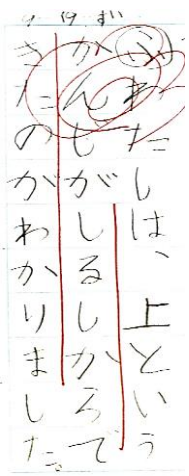
自己の変容（2年体育）



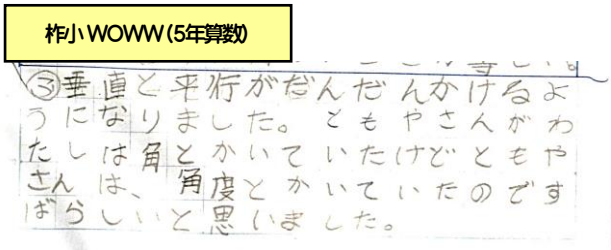
次への意欲喚起（3年国語）



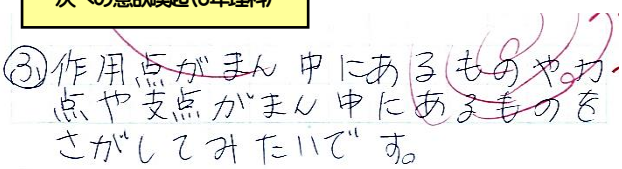
学習内容の確認（1年国語）



柞小WOWW（5年算数）



次への意欲喚起（6年理科）



(2)　課題の視覚化

特別支援学級の自立活動「お誕生日会を開こう」においては、なかよくみんなで活動するために、自分が使ってみたい言葉を板書に示し、常に意識しながら活動できるように工夫した。こうすることで、振り返りの時間にも自分が課題を達成できたかどうかがはっきり分かり、達成感を得ることができた。

５　（教員質問紙）　普段の授業で、児童生徒が安心して発言できる雰囲気づくりに取り組んでいますか。

指標　　「①している＋②どちらかといえばしている」の合計

５月調査	→	目標値	→	11 月調査
23%		50%		100%

◆特徴的な取組

柞小 WOWW の推進

(1)　柞小 WOWW

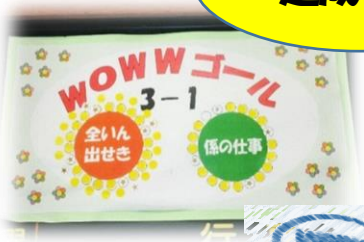
WOWW とは、Workinng on What Works の略で、上手くいっていることに取り組む解決志向のカウンセリング手法であり、この手法を基に本校では柞小 WOWW を行っている。具体的には、児童に今できていることを伝え（コンプリメント）、児童自身のやる気を引き出し、自分の力で課題を解決しようという意欲を持たせる。コンプリメントは教師からだけでなく、児童同士で行ったり、保護者にお願いしたりすることもある。

また今年度は、授業の中でも振り返りの際に、「ふりカエリ WOWW」として、友達のできていることを見つけるように助言した。友達から自分のできていることを伝えてもらうことで、自尊感情が高まり、意欲的に取り組むことができるようになってきた。

(2)　WOWW ゴール

クラスの WOWW ゴールを決め、達成に向けて取り組んでいる。ゴールを決める際は、すぐ全員ができそうなものを選び、なかなか達成できない場合はすぐ変更し、達成経験をたくさん重ねていけるようにする。また、WOWW ゴールにシールを貼り、達成できたら全校 WOWW ツリーに WOWW フラワーを咲かせるようにすることで、達成したことを可視化し、実感できるようにした。この柞小 WOWW の実践により、自己肯定感が高まり、安心して友達と話し合うことができる児童が増えてきた。

各クラスの WOWW ゴール



達成！！

全校 WOWW ツリー

Ⅳ　研究の成果と課題

成果

授業改善の取組

○　必要感のある問いを持たせるための工夫

既習や経験を基に考えた予想とのずれを感じさせたり、児童が何とかして自分達で解決したいと思うような場面を意図的に設定したりすることで、問いが児童にとって必要感のあるものになり、意欲的に学習に取り組める児童が増えた。

○　伝え合いともに高め合う場の設定の工夫

話し合うための話型を自分たちで作って共有することで、誰でも話し合いに参加できるようになった。また、ペアやグループでの話し合う活動を積極的に取り入れたことで、全員が発言する機会が生まれ、問いの解決に主体的に取り組む児童が増え、一人ひとりが達成感を得られるようになった。さらに、友達と教え合うことを通して、自己有用感を感じている児童もいる。

○　振り返りの工夫

振り返りの場を設定し、観点にそって振り返ることで、分かったことやできるようになったこと等、自分の伸びを実感できるだけでなく、互いの学び方の良さに気づくことができ、学び合う喜びを感じることが徐々にできるようになってきている。また、次の学習への意欲にもつながることが分かったので、振り返りの活動を計画的に取り入れていきたい。

柞小 WOWW の推進

○　柞小 WOWW の推進

今できていることに目を向け、伝え合うことを続けていくことで、児童同士の間で温かいかかわりが生まれ、安心感を持って授業に参加することができるようになってきた。また、教師自身が積極的に児童のできているところに目を向け、肯定的な言葉をかけ続けることで、児童自身の力で自分をよくしていこうという気持ちが芽生えてきている。

課題

- 必要感のある問いを 45 分の授業の最後まで持続させるために、教師が個人のつまずきを事前に予測して手立てを考えてたり、少し難しい発展課題を提示したりする等の更なる工夫をしていきたい。
- 話し合いの話型によって、話し合い方は定着してきたが、話し合いによって内容を十分深めるまでには至っていない。今後、何のための話し合いなのかを明確にする等研究を進めていきたい。
- 45 分間の中で振り返りを毎時間充実させることは難しいため、その時間ごとに振り返る観点をしぼったり、毎時間ではなく単元の中で振り返る場所を考えたりする等の工夫が必要である。内容としても、まだまだ分かったこと、できるようになったことのみを書いている児童が多い。今後は、教科の見方、考え方に照らし合わせて、学び方のよかったことを書いている振り返りを全体に広め、学び方の質を高めていきたい。さらに、もっと知りたいことや、条件を変えてやってみたいことなど次への学習意欲が高まっている振り返りを紹介して問いを継続していく等の研究も進めていきたい。